平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

_	 				

<u>◎基本情報</u>																
事務事業名 放課後子ども教室推進事業							担当部署	100	教育委員会	会 生涯	学習人棒	霍課				
総合計画体系								根拠	法令	徳島県放	課後子。	ども教室	推進事			
	基本政策(大項目) 2 ずっと笑顔で生きがい感じるまちづくり							計画		業等実施						
	政策	(中	項目)	4 生	Eきがいあふれるまち なると					開				40 F F		
(小項目) 生					Ξ涯学習					事業	始	平成			19 年度	
	施策			1 生	涯学習	の推進				期間	終	+ }				
	基	本事	事業	3 青	少年健	少年健全育成の推進					期	未定				
0	◎事業概要(PLAN)															
	T.A.	m.>	<u> </u>	1/	□ □ □	J	帯		体		その他	内部	了 管理			
		何)を対象に 「いるか		放課後子供教室の設置を希望する鳴門市内の小学校に通う小学生。												
	事業 目標		まをどのよ こしたい(E	:うな状 目指す)の		で安心した放 の人たちとの					を提供	する				
			き度に何を iしていた	_	放課後子供教室の目的である、地域住民の協力を得て、子どもたちの居場所の定着や体験の場とする。 なお、放課後子供教室の制度が始まって以来、ずっと開設していた一つの鳴門西小学校の教室が25年度 末で閉じることになった。 新たに黒崎小学校において黒崎っ子教室を開設する。											
										25年度	26年	度 27年度	28年度	29年度	単位	
	成果 目標 事業目標の達成度合				放課後子供教室利用者の延べ人数			7,800								
0	実施	結果	₹(DO)													
事業 実施 内容 26年度は目標を達成 するため、手段として どのような活動を行っ ているのか				段として	た。 るよう、 打	室のコーディネ- 指導員を集めて 当初から新設教 -なった。	防災	研修をし	た。			②参	加者が多	そ心して活	動でき	
	事	業	実施手	法	市	実施 🗸	一部	委託 [] 委	託		補助金	_	の他		
				指标	票名			25年度実	績 26	6年度実績	27年原	度目標 28年	度目標 29	年度目標	単位	
活	動指	標	1 教室の実施		回数			39	391	369	9	390	390	390	口	
တ;	施した事業 舌動量を 指標	_	2 教室の参加		 児童数		3!	350		6	350	350	350	人		
対象	成果指標 対象にどのよ うな効果が		汝課後-	子供教園	室利用者	ずの延べ人数		8,541		6,806	6 -	-		-	人	
	あったか示す 指標			目標達	成率(実績/目標)			87.3 —		-	%		%			
								全体の進捗状況 ほぼ計画どおり								
															(千円)	
			年	度	区分	国		県	坩	力債	その他	!特定財源 -	一般財	原 事	業費計	
財源内記					当初予算額	0		2,666		0		0	1,3	34	4,000	
					全体予算額	0		2,666		0		0	1,334	34	4,000	
		訳			決算額	0		2,052		0	1	0	1,0	26	3,078	
		- par 1	平成	26年度	繰越額	0		0		0	1	0	-	0	0	
					7F1-7-C H.R.	正規職員(6,878千	円/人)		2.023=		<u> </u>	人件費		総事業費		
					人件費 0.0 0.3					607 3,685						
					0.0			U.3		1			ა,ნგე			

【事務事業名:放課後子ども教室推進事業】 _____(千円)

	年 度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	3,064	3,078	4,433	4,873	5,314
事業費推移	うち一般財源	1,022	1,026	1,479	1,625	1,772
	人件費	1,955	607	2,063	2,063	2,063
	総事業費	5,019	3,685	6,496	6,936	7,377

◎項目別評価(CHECK)

◎項目別評価(CRECK)								
評価	項目	評価	値	所見欄				
①活動に対	有効性	B:概ね有効t	生があった	ほとんどの教室が8年目をむかえるので、参加人 数が定着してきている。また特色のある放課後子供 教室になってきている。				
する評価	効率性	B:概ね効率	的だった	各教室の事務処理を統一することにより、確認作業が軽減している。				
	指標名	放課後子供教室利	用者の延べ人数					
②成果に対	目標	7,800	人	教室数は同数であるが、教室開始の時期が耐震				
する評価	実績	6,806	人	工事のため遅れたので、目標延べ人数には達しなかった。				
	評価	B:概ね目標を達成できた		7 3720				
③総合的	的な評価	В		指導者の関係で1教室は中止したが、残りの54 室については継続できており、また新しく開設した 室も有り教室数は変わらないのでB評価としたい				

◎今後の方向性(ACTION)										
課題	長く継続できているので、子どもたちには、定着した居場所ができてきているが、指導者の人材不足が気になる教室も増えてきた。また、教室の運営の中心になるコーディネーターの後継者や、新しい教室を作る場合のコーディネーターを発掘するのが課題である。									
今後の方	向性	1.廃止		2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2			
↓今後の	方向	生を踏ま	えた上で、以	.下の欄に記入してくた	ささい。					
中长山泰	H2	7年度	①放課後児頭でいく。	童クラブと放課後子供教室の指導員の情報交換等を行い、協力体制を作っ ②鳴門西小地区が指導者を変えて再開する。						
実施内容	H28年度			をままでの目標値に達 き進に努める。	せれるよう、指導者 <i>の</i>)人材確保や外部団(本等の協力			